

大成館中学校区	校番 28	福山市立神村小学校
最終更新日	2021年(令和3年)2月10日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心に、子ども主体の学びを実現し、確かな力を育成する。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
<ul style="list-style-type: none"> ▶子どもが主体的に学ぶ授業をつくるための教職員研修を充実させてほしい。 ▶関係機関と連携し、教職員が信頼される学校をつくってほしい。 ▶長期欠席・不登校児童生徒への取組を一層充実させてほしい。 ▶保護者、地域と連携し、児童生徒が安心・安全に過ごせる学校を創ってほしい。 ▶達成できなかった指標について、改善状況・方策が分かろうと少しかかるという。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶基礎学力の定着及び「読解力」等に課題がある。 ▶体力面の課題が改善しつつある。 ▶長欠児童生徒の削減が課題である。 ▶あいさつや無言掃除は、小中一貫した取組の成果が見られる。 ▶地域との交流により、郷土への愛着心が高まっている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○相手意識をもって、自分の言葉で表現する力 ~コミュニケーション能力と思いやり~ ○自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力 変化の激しい社会をたくましく生きる子ども
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	1 基礎学力を身につけ、自ら学び続ける子 2 運動・食習慣を身につけ、活力のある生活ができる子 3 規範意識を身につけ、思いやりのある言動ができる子
中学校区として統一した取組等	1 学力向上…自ら考え学ぶ児童生徒の育成、家庭学習の定着 2 体力向上…各校独自課題の克服、食育の推進 3 連携教育…規律、小中歌声交流会、各種学校行事の交流、ふるさと学習の推進

III 自校

ミッション
心豊かに自立・貢献・感謝する児童を育成し、保護者・地域から信頼され、共に歩む学校

学校教育目標
心豊かに自立・貢献・感謝する児童の育成 ~自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う神村っ子の育成~

現状
<p><児童生徒> ○自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う力は意識できるようになり着実に高まってきている。 ●きめられたことや指示されたことは、きちんとできるようになったが、主体的な学習や、行動は不十分である。</p> <p><授業> ○外国語活動では、ALTと連携し、担任がT1となり授業を計画実施し、児童の学習意欲を高め、英語好きな児童をふやすことができた。 ○国語科、算数科の重点単元で自分の考えを書く活動を設定することができた。授業の導入の工夫に意欲的に取り組んだ。 ●「子ども主体の学び」として、子どもが主体となって決めるもの、選ぶものは何かを明確にすることが必要である。</p>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	表現力	課題発見・解決力	主体性・やりきる力	共感力	
めざす子ども像	低	相手に応じて、身近なことなどについて、事柄の順序を考え話す。大事なことを落とさないように書く。	友だちと話し合ったり意見を聞いたりする中で、いろいろな考えを知り、自分なりの考えをもつ。	・学習することを理解し、興味を持って積極的に取り組む。 ・自らがやるべきことは、あきらめずに最後までがんばろうとする。	・友だちの立場や思いを大切に、仲良く活動する。 ・友だちの考えをよく聞き、自分の考えと比べる。
	中	相手や目的に応じ、考えたことや調べたことなどについて、筋道を立てて話す。自分の考えが相手に伝わるように理由や事例をあげて文章を書く。	自ら課題を見つけ、進んで情報を収集し、自分の知識・技能と結びつけ考えを出し合いながら問題解決に取り組む。	・学習に見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を意欲的に進める。 ・自分がやろうと決めた目標に向かって強い意志をもち、自信をもってねばり強くやりきる。	・他者の大切さを認め、相手の立場に立って考え、協力し合う。 ・互いの考えを認め合い、学び合う。
	高	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて筋道を立てて的確に話す。目的や意図に応じ、考えなどを効果的に、文章に書く。	様々な事象を多面的に見て、解決すべき課題を見出し、必要な情報を収集・分析しながら、創造的なアイデアを出し、解決していく。	・学習に見通しをもち、既習事項を活用しながら考えを深め、主体的に解決しようとする。 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけず努力してやりきる。	・友だちの良さや互いの違いを尊重し合い、積極的に集団や人に関わる。 ・互いの考えから学び合い、考えを広げたり深めたりする。

研究	教科等	算数科、外国語活動・外国語科
	主題・内容等	自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う子どもの育成 ~主体的・対話的で深い学びのある授業づくり~

めざす授業の姿	○考えを交流し合うことで、自分の考えを広げ深めたり、新たな考えを創造したりする授業。
---------	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神村小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら考え、表現する、やりきる、関わり合う児童の育成(子ども主体の学びの推進)	★	見直し	3つのM「自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己評価の継続と課題に係る改善 PDCAによる一人一プロジェクトの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 3つのMにおける児童の行動化に係る肯定的評価 85%以上 プロジェクトの目標に対する職員評価 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価 78% □低・中・高で取組状況を確認し3週間ごとの集計をもとに、評価の低い項目を重点に取り組んだ。 職員評価 72% □1学期末の進捗状況を確認し、改善点を明確にして取組を継続した。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○児童にめざす姿を提示し意識を高めるとともに改善点を明確にし、評価の低い項目を集中して取組を進める。 ○定期的に進捗状況を確認し、PDCAサイクルを確実に実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価 83% □取組状況を確認し2週間ごとの集計をもとに評価の低い項目を重点的に取り組んだ。 ○職員評価 79% □3部会で進捗状況を交流・確認し、改善点を考え、取組を継続した。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○学年末に向けて「表現する」「やりきる」を意識させ集中して取り組み、さらなる行動化を促す。 ○各自が、年間目標を確認しながら年度末に向けて成果と課題を明確にし、来年度の改善につなげる。
				主体的・対話的で深い学びのある授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を引き出す導入の工夫、力のある学習課題の設定 「子どもが進める授業」づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業で考えることが面白い」肯定的評価 85%以上 つなぎ発言ができる児童の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価 83% □導入の工夫や、学び合いの場を設定し、授業が分かると感じることを増やした。 児童評価 61% □黒板に貼って意識付けをしたり、繋ぎ言葉を使った時に褒めたりした。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、導入の工夫を行ったり、児童同士で学び合いをする場面設定を増やしたりする。 ○子ども達がつなぎ言葉を使った時には、黒板に貼ったり書いたりして、言葉を使って意見をつなぐ良さを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価 85% □授業の導入は、工夫したり児童同士が学び合ったりすることで、意欲をつなぐことができた。 ○児童評価 69% □つなぎ発言については、発達段階にそってカード等を使って指導を行った。授業形態によっては、発言をつなぐ場面が少なく、言葉をつかえていないことがあった。授業における発言の方法を再考する必要がある。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、単元などによって導入を工夫し、児童同士のかかわりが多い授業を設定することで、分かる授業を目指す。 ○発言をつなぐことが、発表という場だけでなく、児童同士の学び合いの場面でも自然と言葉がでるような場面設定行っていく必要がある。
3	自ら考え、表現する、やりきる、関わり合う児童の育成(主体的規範意識の向上)		見直し	日常生活において課題を発見し解決する・やりきる・関わり合うことを習慣化まで向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童会・委員会・登校班等による、主体的挨拶の実行 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶レベル4以上の児童 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価 77% □あいさつ委員、児童会を中心に挨拶運動に取り組んできているが、以前と比べてレベル4以上の挨拶をしている児童が少ない。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶委員が各教室に出向き、レベル4の挨拶を見せて浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価 82% □児童会、挨拶委員会を中心に挨拶運動を行い、挨拶のよかった児童の紹介や評価シールを与える取組を行っている。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動を引き続き行い、挨拶の更なる向上を目指す。学校内での挨拶を充実させるための取組を行う必要がある。
				学校内の日常的环境美化	<ul style="list-style-type: none"> 無言掃除・黙想に係る児童評価 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 3児童評価 82% □2学期より縦割り班掃除を開始し、より意識して取り組みを行うことができるようになってきている。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生を中心に振り返りを行い、無言掃除、黙想ができていくかチェックし、取組の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価 90% □縦割り班掃除が浸透し、児童の無言掃除、黙想が定着してきている。引き続き取組を行う。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年が掃除の仕方の見本となり、継続的な取組を行っていく。 	

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

3	自ら考え、表現する、やりきる、関わり合う児童の育成(主体的健康の増進・体力の向上)	継続	健康の増進、体力の向上の大切さを理解し、基本的な生活習慣・運動習慣における主体性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動、保健・衛生に係る学習、食育指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 残菜1人当たり5g以下 	<ul style="list-style-type: none"> 残菜1人当たり0.57g 引き続き、委員会活動で呼びかける。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き給食時間に声掛けなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 残菜1人当たり1.7g。目標を大きく達成した。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き声掛けなどを継続していく。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動による「体育の日」等の充実 体力テストの分析考察による日常の取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「1日1度は外遊びをする」児童90%以上 新体力テスト結果県平均を上回る種目68/96以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価77% 委員会活動を中心に、外遊びの啓発を図る。 握力を継続的に計測し、県平均を上回る児童を50%以上にする。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き声掛けなどを行う。 朝の握力運動を継続して行うとともに、数値の変化を伝え意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価95% 握力を継続的に計測し、学年目標数値を100%達成した。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き声掛けを継続していく。 来年度の目標数値を目指し、握力運動を継続していく。 		
3	特別な配慮を必要とする児童への支援の充実	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 児童の特性に応じた授業づくり・支援による心の安定 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの学校づくり SC, SSWの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」の児童評価90%以上 長期欠席者の割合を全児童の1%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価89% 通常の学校生活が行えないところがあった。 長期欠席者0% 週1時間の、「神村っ子タイム」により、長期休み明けの欠席者が少なかった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 配慮が必要な児童へのかかわり方や対応の仕方を校内支援委員会等使って共有し、校内で方向性を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」児童評価91% 配慮が必要な児童への関わり方を校内で方向性を相談しながら進めた。 長期欠席者1% 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き校内支援委員会等使って共有を図っていく。
3	保護者・地域から信頼される学校づくり	見直し	学校から積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行 行事写真の校内掲示 児童作品、ノート等の表彰掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の取組満足度」の保護者の肯定的評価が85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価87% 通信・連絡帳等で児童の様子を伝え、参観日がなく学校の状況が伝わりにくいこともあった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを行事ごとに更新し、閲覧を呼びかける。 通信・連絡帳等で積極的に児童の様子を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の取組満足度」児童評価92% 「学校の取組の様子がよくわかる」児童評価81% 通信・連絡帳等で児童の様子を伝えた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で保護者の来校が少なくなった。引き続き通信・連絡帳等で学級・学年、児童の様子を積極的に伝え、保護者・地域からの信頼を高める。 	
			E S D教育の推進 住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的神村プログラム(「地域の人・こと・もの」から学ぶ)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「神村の町が好き」児童の肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の町が好き」児童評価94% 神村プログラムを確認しながら、取り組みを進めた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 神村プログラムに沿って、できる範囲内で地域伝統や行事のよさ・大切さを伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の町が好き」児童評価92% 実体験ができない状況が続いた。学期ごとに取組状況の見直しを行った。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の計画を見直し、他教科と横断的に指導することで、更に内容を充実させる。 	
			働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善、協働による着実な業務遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間が月45時間超の職員0人 	<ul style="list-style-type: none"> 月45時間超の職員0 職員の時間外在校時間は、平均24時間 18:30までに帰宅するように呼びかけた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 見通しのもてる職員室ホワイトボード掲示を行い、空き時間を常に意識して業務遂行を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務職員平均は21時間 教頭平均は年間41時間である。 18:30退校が取組の中で定着した。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 各教職員の学校経営参画意識をいっそう向上させる。 隙間時間を常に意識した業務遂行を実働させる。 	

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。